

とっとり 土地改良だより



発行
みどり
水土里ネットとっとり
鳥取県土地改良事業団体連合会

〒680-0911 鳥取市千代水四丁目37番地

TEL (0857) 38-9500 FAX (0857) 38-9577

<http://www.totirengogonet.or.jp>

印刷所 日ノ丸印刷株式会社



農村の風景フォトコンテスト2016
「実りの秋のローカル列車」岩美町

目	○進藤金日子参議院議員が農業被災状況調査や地元との意見交換を実施	2
	○土地改良区体制強化事業監査実務等向上研修を開催	3
	○2021年度インターンシップを実施	4~5
	[シリーズ]	
次	○あつまれ、 <small>みどり</small> 水土里のなかまたち	6
	○編集後記	6

進藤金日子参議院議員が 農業被災状況調査や地元との意見交換を実施

7月豪雨で被災した状況と、本県の土地改良情勢について、8月5日に進藤金日子参議院議員と土地改良区等の役員や農家との意見交換会が西部、中部、東部の3会場で行われた。

コロナ禍でもあり、進藤議員は、抗原検査陰性の確認を行い来県して、西部会場(米子市)では7名、中部会場(北栄町)では10名、東部(土地改良会館)では6名が集まり開催された。

交換会では、現場の声として、「7月豪雨で決壊した双子池について地元から、防災重点ため池でないため改修にかかる負担割合が多くなり負担に耐えられない受益者が少なくないこと。この時期は水田に水が必要だが水路が被災して水が引けない。湛水により大豆がだめになった。農家の役割を国民の理解を得られるような広報をお願いしたい。」などの意見があった。

東部会場では、県農地・水保全課 森田智彦課長から本県の土地改良関連災害の被災状況の報告と湯梨浜町 宮脇正道町長(鳥取県土地改良事業団体連合会副会長)からは、町内の崩落した宇野農道の被災状況説明が行われた。

進藤議員からは、現地を見る、現場を知ることが重要で、土地改良関係者との意見を良く聞き、良く見て、この交換会を有意義なものとして、現場の声と課題を国へ届けて対応していきたいと力強く述べた。



東部会場の様子(被災状況の聞き取り)



西部会場での意見交換会



中部会場での意見交換会

土地改良区体制強化事業監査実務等向上研修を開催

9月7日(火)「倉吉未来中心セミナールーム3」において、土地改良区体制強化事業監査実務等向上研修を開催し、土地改良区の監事他51名が参加しました。

開会にあたり、水土里ネットとっとり会員支援課 坂本課長より「いよいよ令和4年度の会計から貸借対照表の作成が始まります。主に土地改良区の職員向けに巡回指導等を通じて指導を行っていますが、本日は監事向けということで、収支予算書・収支決算書の科目についても説明させていただきます。ポイントだけでも覚えて帰って頂けたら幸いです。」と挨拶がありました。



会員支援課 坂本課長

1. 土地改良区の監事の職務(水土里ネットとっとり 会員支援課 坂本課長)

最初に、監事の職務について説明がありました。続いて、役員の職責(善管注意義務)に関して、賦課金の未収に関することについても説明があり、その中で貸借対照表の長期未収賦課金等は、時効が完成していない未収賦課金等であること。また、長期未収賦課金等について、徴収不納のおそれがある場合は、不納欠損処分承認を総(代)会で議決するよう、話がありました。

2. 土地改良区の指導・検査(鳥取県農地・水保全課 宮脇課長補佐)

定期検査(原則3年に1度)の業務及び会計の状況の検査結果に基づいて、説明がありました。令和2年度の対象10土地改良区の①組織及び運営に関する事項②会計経理に関する事項の説明がありました。なお、今回の内容は、鳥取県農地・水保全課のホームページに掲載されています。

3. 収支予算書・収支決算書、貸借対照表の科目(岸本信一税理士事務所 岸本税理士)

最初に、貸借対照表、正味財産増減計算書、収支決算書の概要とそれぞれの関係について、話をされました。続いて、テキストを用いて大まかに各科目の配列等について説明がありました。

4. 監事による内部監査方法(水土里ネットとっとり 総務企画課 吉村課長)

監事による内部監査について、「単に、土地改良区の不正行為をあばき、対外的信用を失わせ、その発停を阻止しようとするのではなく、あくまでもこれにより土地改良区の適正な運営を確保することを目的としている。」と話がありました。その後、監事の年間スケジュールに沿って、監査のポイントについて、説明がありました。



農地・水保全課 宮脇課長補佐



岸本税理士

2021年度インターンシップを実施

本会では、2008年度から大学生を対象にインターンシップ（職場実習）を実施しています。本年度も、8月10日（火）～18日（水）と8月30日（月）～9月3日（金）の2回に分けて、鳥取大学から2名、鳥取短期大学から1名を実習生として受け入れました。

この実習は、大学生が在学中に自分の専攻に関連する企業に体験入社し、様々な業務を経験する目的で実施されています。

本年度は、CADトレーニング、土地改良施設診断、ため池点検、測量・地籍調査実習などを行いました。

インターンシップを終えて



ドローン操作

上にこの分野での仕事が複雑でやりがいを感じる仕事であることを知ることができました。この経験を活かして、今後も農業土木分野に関する知見を深め学んでいこうと思います。この度は、本当にありがとうございました。

鳥取大学農学部生命環境農学科 4年生 高井 優

この度のインターンシップは、私が大学で学んでいる農業土木の実際の現場がどのようなものなのか知るために参加しました。5日間の体験を通し、農業土木や土地改良事業について理解を深めると共に、この分野で働くということに対するイメージが鮮明になったように思います。また、実際に現場での作業を体験し、担当の方々からお話を伺うことによって、自分の想像以上



ため池点検

に励み、この経験を進路選択に活かしたいと思います。5日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

鳥取大学農学部生命環境農学科 3年生 藤田 理子

5日間のインターンシップの中でCADトレーニングやため池点検など内業と外業の両方を体験させて頂き、農業土木分野の仕事をより具体的に掴むことができました。また、実際の現場を訪れ、初めて見聞きするものも多かったですが、大学で学んでいることがどのように活かされているのかも知ることができました。残りの大学生活で、さらに知識をつけられるよう学業

鳥取短期大学生活学科
1年生 北村 伸樹

実習を通して、普段食べているお米は農家の人たちだけではなく、土地改良区の職員の人たちが深く関わっていることを知ることができました。朝早くに家を出て、実習をし、家に帰る頃にはくたくたになっていたのですが、「働く」というのは大変なことなんだと実感することもできました。5日間ありがとうございました。



CADトレーニング

以下の業務も体験しました。



災害現場



ため池点検



測量・地籍調査



自動給水機点検





愛と絆のある農業・農村をめざして
水と土を愛する
なかまたちを順次ご紹介

鳥取県農林水産部農業振興監農地・水保全課 係長 谷口 佳人



農業振興監農地・水保全課の谷口と申します。今年3月末に県職員を退職し、4月から再任用で当課に配属となりました。退職前は、鳥取農業改良普及所長として、現場での集落営農法人の育成、新規就農者や担い手農家の経営支援、産地振興等の普及活動に従事していました。当課では企画・保全支援担当班で中山間地域等直接支払制度や環境保全型農業直接支払制度、農地整備事業の営農計画等を担当していますが、配属当初は、十何年ぶりの補助金事務やパソコンでの支出負担行為、市町村や農政局とのやり取り等に追われ、理解が十分できていない中で業務をこなすのに精一杯でした。今でも十分ではありません

んが、課の足を引っ張らないよう気を付けながら業務に当たっています。

さて、我々、農業者を支援する者のミッションは「儲かる農業」の支援にあると考えています。普及員時代、農業者に儲けてもらうために、心がけていたことを若干お話ししたいと思います。農業経営は4つの経営資源「農地(ほ場条件、規模)」、「人材(労働力、技術、技能)」、「資本(資金、機械施設)」、「情報(市場、技術)」を効率的に活用しながら儲けることが目標となります。そのため、どうすれば経営資源を有効に活用して儲けることができるのか、農業者と一緒に考えながら普及活動を行っていました。特に、経営改善や営農計画を検討する際には、「生産性と効率性」を重視していました。生産性には土地生産性(収量/耕作面積=反収)、労働生産性(収量(売上)/労働量)、資本生産性(収量(売上)/設備投資額)があります。土地生産性(反収)は、適地適作、栽培技術向上によって高めることができます。また、労働生産性を高めるためには、収量(売上)向上のほかに農作業の効率化も重要であり、GAP手法でのカイゼンの取組についても併せて提案していました。資本生産性については、過剰投資となっていないか、どうすれば施設・機械を有効に活用できるのかを検討していました。農業経営は生き物で、天候や市場、社会情勢等の影響を受けやすく経営状況が変化するリスクを抱えているので、農業者は経営状況を把握しておく必要がありますが、生産から販売、資金管理まで多くの仕事をこなさなければならず多忙なことから、普及員として少しでも力になれたらと心がけていました。

普及員時代にも農地整備事業に関わっていましたが、農地整備事業は、計画段階からハード面と併せて具体的な営農構想を策定する必要があるため、地元と協議しながら担い手の確保方法や営農計画の立案、経営試算の作成、事業後の営農フォローアップ体制まで多くのことを検討しなければならず、将来の地域農業を実現していくプロジェクト事業と捉えていました。事業には県、市町村、中間管理機構、農業団体等多くの関係機関が関わっていますが、私も微力ではありますが、自分のスキルを活かしながらそのメンバーとして関わることができたらと思っています。今後ともよろしくをお願いします。



河内地区(鳥取市)の営農指導を退職前に行う。



編集後記

みなさん、オリンピック、パラリンピックの観戦はされましたか？テレビにうつる観客席がさみしく感じましたが、鳥取から初の金メダリストが出るなど、久しぶりに活気づける大会だったと思います。オリンピック開催時は酷暑でしたが、今年は雨が多く、涼しく感じる夏でした。秋の外出、そろそろ気兼ねなくしたいものですね。